

【情報公開文書】

2022年12月26日作成

Ver.2

研究課題名	ビオチン含有末梢静脈栄養輸液の使用がカテーテル関連血流感染に与える影響
所属（診療科等）	長崎大学病院 薬剤部
研究責任者	里 加代子（薬剤師）
研究機関	この研究は長崎大学病院 薬剤部のみで実施します。
研究期間	2021年5月18日～2024年12月31日
研究目的と意義	パレプラス [®] 輸液、ビーフリード [®] 輸液のような末梢静脈栄養（PPN）を使用した患者さんにおけるカテーテル関連血流感染（CRBSI）発現率を調査し、製剤間における細菌・真菌感染発症リスクの違いを評価することで、製剤によるCRBSI発現率の違いを明らかにすることが目的です。CRBSI発症による治療を未然に防ぐことで、患者さんの予後の改善に貢献できると考えています。
研究内容	<p>●対象となる患者さん 2019年6月1日から2019年11月30日にパレプラス[®]輸液またはビーフリード[®]輸液が投与された患者さんで、かつ血液培養あるいはカテ先培養が陽性であり、ルート感染と診断された20歳以上の患者さん</p> <p>●利用する情報 パレプラス[®]輸液・ビーフリード[®]輸液の投与期間、パレプラス[®]輸液・ビーフリード[®]輸液投与期間中のルート交換の有無、血液培養・カテ先培養で陽性になった細菌・真菌の種類やルート感染の有無（血液培養・カテ先培養実施例のみ）、パレプラス[®]輸液とビーフリード[®]輸液の投与経路、悪性腫瘍の有無、手術の有無、化学療法の有無、栄養状態（アルブミン値）、絶食期間、穿刺部位（中心静脈（内頸静脈・鎖骨下静脈・大腿静脈）・末梢）、点滴の挿入期間、脂肪乳剤の投与、血液製剤の投与 患者背景：パレプラス[®]輸液・ビーフリード[®]輸液投与開始時の年齢、性別、身長、体重、入院期間 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。</p> <p>●研究の概要・方法 上記調査項目について患者さんの過去の電子カルテ情報から情報を収集します。対象期間のパレプラス[®]輸液処方患者、ビーフリード[®]輸液処方患者数を出し、CRBSI発現の割合（薬剤を投与した患者さんでルート感染者数 / 期間中の薬剤投与患者数）を算出します。また、上記調査項目を用いて、患者背景の統計解析を行い、感染リスクとなる因子についても調査します。 ルート感染の定義は熱および血液検査や培養検査等にてCRBSIが疑われ</p>

	カテーテル抜去後に解熱が得られたものを臨床的 CRBSI と定義します。
問い合わせ先	<p>【研究担当者】</p> <p>氏名：里 加代子（薬剤師） 長崎大学病院 薬剤部</p> <p>住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号</p> <p>電話：095（819）7249 FAX 095（819）7251</p> <p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）</p> <p>苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616</p> <p>受付時間 : 月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）</p>